

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さん、こんにちは。吉川の一般質問を始めさせていただきます。今回は7項目について、通告をしております。

まず1点目の、国民健康保険の安定運営について質問をさせていただきます。今、武雄市の一番の財政上の課題は何かと言われれば、この国民健康保険の問題であるというふうに認識をしておるところでございます。この国民健康保険につきましては、昭和36年に制度化されて、これまで半世紀にわたってですね、運用がなされてきておるわけでありまして。

現在に至っては医療の高度化、あるいは高齢化によりまして、このグラフの給付の部分の面積がですね、非常にふえてきている。額も年々ふえてきている状況でございます。一方、収入の部分を見ますとですね、保険料収入がなかなか伸びないという問題。それと、国庫負担につきましても、従前からすると大幅に削減をされているといった諸問題があるわけでありまして。そういう状況の中で、武雄市の国保の収支を見ますと、平成22年、単年度収支でございますと1億4,400万。累積赤字が、2億1,700万ということになっております。

この平成22年につきましては、診療報酬の改定が10年ぶりになされて、給付が非常に伸びたという年でございました。その後もグラフのように、非常にですね、単年度収支が伸びてきている。累積赤字も25年度、これは見込みでございますけれども、6,500万円。累積にすると6億5,000万円の赤字に上るというふうなことでございます。まずこのことについて市長、どのように認識をされているのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはもう絶望的だと思いますね。これを放置しておくと、本当に借りたお金を返せないのと同じで、（笑い声）本当大変なことになっていくと思うんですね。ですので、ちょっとこの額はやっぱり早急に手を打つべき話だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

これ25年度まで出ておりますけれども、恐らくこの調子で平成30年、これ都道府県の広域化が推進をされる年でありまして、30年までと見ますとですね、10億円を超える赤字、累積赤字になるのではないかとこのようにこう思われるんですね。そういう状況の中で、今年度26年度始まったばかりでありますけれども、26年度の状況、見込み、どのように考えられているのかお伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

国民健康保険の会計の 26 年度の見込みということでございますが、今、議員のほうからいろいろと御説明がありましたように、非常に厳しい状況が続いております。26 年度につきましても、まだ決算見込みというのはちょっとまだまだ立てにくい状況でございますが、このまま推移すればですね、また赤字が出るという非常に厳しい状況になるということで見込んでいるところでございます。

以上です。

〔13 番「数字は」〕

数字につきましても、このままではなかなか言いにくいですが、1 億は覚悟しているという状況でございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

この累積赤字を見れば、以前の市民病院の……（発言する者あり）累積赤字と全く一緒なんです。やはり市民の皆さんも執行部も議会も、このことをですね、やはり同じ共有をしていかなければいけないというふうに思います。

そういう中で、この国保収支を 29 年度までどうやっていくのかということですね、今の現状について、ちょっと確認をさせていただきます。

国保収支を改善する上では、大きく分けて 4 つあると思うんですね。まず、収納率を上げていく。それから、医療費の削減、抑制を図っていく。（発言する者あり）それから一般会計の繰り入れ、そして国保税の見直しと。（発言する者あり）

そういう状況の中でですね、今、収納率をこう見てみますと、平成 22 年が 90.8% だったんですね。それが平成 24 年になると 91.6% ということで、コンマ 8% ほど改善をいただいております。それは収納特別チームをつくっていただいておりますね、頑張っている成果が出ているというふうに思うんですね。年間に直しますと、1,000 万ぐらいの収納が上がってきている。そういう状況でありますけれども、これ県の目標値が 93%。それに対して、武雄市も 93% でありますけれども、そこまではまだ達成できてない状況にあるんですね。このことについて、どのように分析されて、今後対応されていくのかお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

保険税の収納の収支改善のための対応ということでございますが、25 年度の収納率の見込みですが、92.3% ということで、昨年、24 年度に比べまして若干改善してきているという状

況でございます。これについても、先ほど議員のほうから御紹介がありましたように徴収体制をとりまして、滞納された方につきましては早めにですね、対応していくというので、機動的に現在収納についての努力を行っているところでございます。一定こういった努力を続けながら、今後もですね、収納率の向上には当然進めていかなくてはいけないという状況でございますが、国保の構造的な問題点というのがございまして、加入された方の所得の状況とか、いろんな、ちょっと厳しい状況がございまして、大幅な収納率の向上というものはなかなか見込めないんじゃないかというふうに思っております。

ただいずれにいたしましても1%収納率を上げればですね、大体1,000万から1,500万程度の増収ということになりますので、今後もぜひ、広域化までにはですね、当然努力をしていかなければならないというところで考えているところでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと補足をしたいと思うんです。

お金を借りた議員さんはぼけたふりをして返さないということを聞きましたけども、我々は、ぼけたふりはできないんですね。ですので先ほど（笑い声）部長からあったように、収納率の改善はちゃんとやってまいります。そして医療費の削減は、これはもう完全にその個人の話ですので、それは医療費がかからないような手だてをしていく必要があるだろうと。

一般会計の繰り入れについては、確かにこれは大きい話なんですけど、これは病気という、原因療法じゃなくて対処療法なんです。もともと一般会計で入れるべき話を、こっちの国保に振りかえているだけなんで、これは解決策にはならない。

一番の問題は、この国保税の見直しなんです。だから今度、消費税が今8%じゃないですか。僕は10%に上げるのは賛成です。賛成だけれども、これを僕は子育てとかって入れるのではなくて、もともと今下がっているところに、ここにやっぱり充当してほしいというふうな思ってます。だから国の国庫負担率を上げることによって一般会計の繰り入れがなくなれば、その分だけ子育てとかにいけるんですよ。

だから我々とする、ぜひそういうふうにしてほしいなと思って、ここで大事なのは自民党と公明党なんです。自民党の支部長が山口昌宏さんですので、ぜひこれ自民党を中心として声を上げてほしいと思います。やっぱりそうしないと、本当に我々は国保にずっとお金を入れることによって、実際したいと思ったところできなくなるんですよ。その前になんとかする必要があるだろうと思っておりますので、我々はできることは精一杯やってまいりたいと、このように考えております。ぼけたふりはしません。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

国保税の見直し、これは値上げということですか、ちょっと確認です。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは値上げも含めて考えますけれども、それと同時に国庫負担率の引き上げです。国庫負担率の引き上げがないと、もうもたないということにつきます。これは武雄市だけじゃなくて、いろんところがそうなんです。ですので、それを国に強く求めていきたいなと思いますね。もうね、集団的自衛権とかその後でいいです。本当にそう思います。それをまずやって、公明党さんがうなずかれていますけど、それをやった後にね、集団的自衛権はその後ゆっくりやればいいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

確かに国保負担もですね、従前は 50%ぐらいあったのが今 25%まで下がっているんですね。そういったところもやはり要望をかけていかないといかんというふうに思います。

先ほど、国保税の見直しの部分もありましたけども、これ平成 25 年 4 月から 12.9%ほど、武雄市値上げをしているわけですね。それでもまだまだ追いついていないと。

これは、4 人家族のモデル世帯、夫婦そして子ども 2 人の世帯でいきますと、47 万円ぐらいの年間負担しとるんですよ。所得が 300 万のところですね、年間 40 万を超える負担を今されているということで、これはやはり相当高い位置にあると思うんですね。

ですから、むやみにこの国保税をあげるというふうなことになるれば、やはり生活そのものが、市民の生活がですね、苦しくなる。こういった部分もありますので、ぜひそこはですね、値上げの部分については慎重に対応をしていただきたいというふうに思います。

それとですね、一般会計からの繰入れでございますけども、これも平成 24 年度から 5,000 万ずつ 29 年度にかけて、約 3 億円投下するというところで決めたわけでもありますけども、それでもですね、なかなかこの赤字が止まらないというふうな状況にあるわけでもあります。

唐津市が 25 年度、2 億 6,000 万ほど入れてます。小城市も 2 億ほど入れております。そういうことでですね、ぜひこの一般会計からの繰入といった部分は、ぜひこう早急にですね、考えてやっていただきたいというふうに思います。

それとですね、医療費の削減でありますけども、これはいろいろあると思います。レセプト点検だとか、ジェネリックの医薬品の活用、そしてまたいろんな生活習慣病等の健診活動ですね。こういった努力が今現状どのようになっているのかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

ただいまの御質問にございました、医療費の削減対策ということでございます。大きく2つ行っているところでございます。

まず1つがですね、特定健診の受診の勧奨を進めるということでもあります。早めに特定健診を受けられて、次の段階にいかないようにすると。生活習慣病による疾病をなるべくおさえて医療費がかからないようにするということでもあります。具体的にはですね、保健指導などを行うためにチームダイエットというのを組織しております。

これは市内を3区分いたしまして、保健師とか栄養士の方とか、そういったチームを組みまして2人1組でですね、対象者の方を訪問しているような勧奨、お話をして対応、保健指導とか行っているという状況でございます。

あと1つが、先ほどございました後発医薬品の使用の勧奨といいますか、いわゆるジェネリック医薬品の利用促進をはかるためにですね、差額通知をお送りするとか。それとか希望者に対しまして、意思表示をして、私はジェネリック医薬品を使いたいということで、被保険者証のカバーにですね、それを入れとってくれということで、専用のカバーを作るとか、そういった意思表示の保険証のケースの配布事業とかいうのを行っているところでございます。

その効果ということですが、ちょっと金額で出すのがなかなか難しいんですが、数字的に申しますと、チームダイエットの活動も含めましてですね、特定健診、国保の対象の方で40から74までの方。9,600人のうち大体3,000人程度うけてらっしゃいますが、24年度が31.5%、そういった率だったんですが、24年度ですね。これが25年度34%ということで、見込み率は2.5%増加しているという状況でございます。

それとあとジェネリック医薬品の使用割合についてですが、これも数値的になかなか金額で出すのは難しいんですが、利用の割合ということでありますが、24年の4月で11.21%ということから、本年26年の2月で15.55%ということで、これも4%強、増加しているという状況であります。

そのほかですね、健康に対する出前講座とか、各町の区長会に出向きまして、現在各地域で住民健診、特定健診を行っておりますが、ぜひ勧奨を、受けてくださいということで区長会のほうに依頼をしたりとかいう形で、あらゆる機会を捉えてですね、努力をしてる、そういった状況でございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

介護のスペシャリストの豊村貴司さんという人から聞きましたけどね、やっぱり歩くのが1番らしいんですよ、歩くのが。それでしかも、旦那と嫌だったらペットと歩くというので、ぜひ、わんちゃんとですね、一緒にこう夕方歩く。これ見守りにもなるわけですよ、子どもたちの。

そいけんが、そういうふうにも私もランニングしようとき、結構多かですもんね。そいけんそういうふうにもこう気軽にね、歩いて行けるような、だから例えば、花であったりとか、道路だったら整備をしたりとかっていうことも合わせて大事だと思っています。楽しくこう歩くようにね。

だから例えば、六角川もそうなんです、一部こう歩けない部分もまだありますし、例えば、白岩の運動場も、もう夜になったらもう真っ暗で結構大変だったりもするんで、だからそのライトアップも含めてね、していきたいなというふうに思っています。

とにかく医療費が、削減が、この中でたぶん最大のポイントだというふうに思っていますので、それも合わせてやっていきたいなと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

市長のほうから予防ですね、予防医療を推進をしたいということでもありますけども、先ほど部長から話がありましたけれども、その受診率ですか、34%だと、国保加入者のですね。3人に1人しか受けてない、3人に2人は受けてないですよ。こういった部分をやはりいかにふやしていくのか。

病気が軽いときにいかに発見をしていくのかといった部分が大事だというふうに思いますし、またジェネリック医薬品が15.5%ですか、現在カバーしているということでもありますけども、厚生労働省が言っているのは39%ぐらい今、平均でいっているということなんです。平成30年には60%まで持っていくよと。その数字からすれば非常に武雄市進んでないんじゃないかと、推進が遅いんじゃないかと。

そういう関係の団体との協議とかもですね、やはりもっと積極的にして、この活用をしていくべきだというふうに思いますし、やはり国保の加入者の方に特にやはりこの健診を受けていただく、受けていただかないから、措置費がふえて、結局国保税の引き上げにまたなっていくんですね。

そういったところをやっぱりもっともっとPRをしていく、そういったところが重要だと思いますけども、この点についてはいかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

今、御指摘がございましたように、特定健診、特にこれにつきましては、新たに実施計画をつくってですね、現在取り組んでいるところでございます。

目標が50%と掲げてますが、それに向けて保健師一体となってですね、頑張っているところでございます。

なにしろ今、御指摘がありましたように、重症化を防ぐと。生活習慣病から重症化を防いで、医療費の増嵩につながらないような形をします。そのためには、やっぱり介護予防の観点から、それと特定健診を受けること、そういったものを中心にですね、今後とも積極的に取り組んでまいりたいというように思っておりますので、よろしくお願ひしたいというように思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

24年度から一般会計の繰り入れ等でですね、計画見直しをしたんですよね。そのときに繰り入れをすることによって、29年度には2億6,000万ぐらいの赤字で止まるだろうというふうなことだったんですね。もう既にこれが10億近くになるというふうなことでありますので、ぜひここはですね、早急にプランをたててですね、議会のほうへ提示をお願いをしたいというふうに思っております。

そういった分のスケジューリングは、何か考えてありますか。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

今の国保財政の今までの積み残し分、いわゆる累積赤字、それと今後のまた財政運営、それが広域化を見据えたところといたしますか、平成29年度をめどにですね、県が統一した国保財政の運営と、保険財政の運営というのが行われるようになっております。それまでについては当然、国保を武雄市として運営せんといかんという状況にございます。

したがいまして、大きく2つに分けてこれまでの累積赤字のほうをまずどうするかというのが1つあるかと思えます。それと、今後の国保財政をどうするのかというのもまたあるかと思えます。そういった2つの観点から、一般会計から繰り入れするとか、ある程度皆様方には保険税についてもまた少し負担をしていただくかわからんと。

そういったものを総合的にですね、検討を進めながら今後の国保財政の運営を考えていかなくてはいけないという状況にきているというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

今の答弁では、具体的なスケジュールはまだないということですので、ぜひここはですね、あともう4年しかないんでぜひ早急にですね、対応していただきたい。

この広域化のときには、この赤字は清算をした上で都道府県単位の合併になるというふうにお伺いしておりますので、早急に試算をしていただきたいと思います。それと先ほども市長、話ありましたけども、広域化では根本的な対策にはやっぱりならんのですね。

国庫からの繰り入れも含めて、税ともう1つは給付。これを一体として、やはり国が管理をしていく。こういったことに持っていかないといかんわけでありまして、そういった取り組みについて何かございますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうそれこそ、もう吉川副議長の出番ですよ。やっぱり自民党内で大きな力をお持ちあそばされている吉川副議長であつたりとか、ちょっと勘違いされておられる山口昌宏市議会議員とか。（笑い声）

だから、それは自民党が総力を挙げてやるべき話だと思いますね。これはやっぱりですね、前の民主党政権がこれできなかったことだと思うんですよ。これ財務省が激しく抵抗しますんで、そこはやっぱり政権与党の自民党と公明党が力を合わせてこの制度をつくっていくと。

国による一元化が私も一番望ましいと思ってる。住むところによって国保の負担が違うっていうのはちょっとおかしいですもんね。おかしいと思うんですよ。ですので、どこかが高くてもどこかが低いうことは、僕は憲法違反だと思っていますので、それはぜひ、まあ我々も例えば、市長会もこの頃最近行かなくなつたんですけど、（笑い声）また行くようになってですね、積極的にまた申し上げていきますので、ぜひ自公の政権に力を合わせてね、やっていきたいとこのように思っております。

議長が、が一んっていきますので、はい、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

1 世帯あたりの調定額もですね、武雄市がだいたい16万、県内で低いところが13万なんですね。高いところは21万、それだけやはりこう地域によって格差があるんですよ。

まずその第1段階としての都道府県の合併はいいわけでありまして、根本対策にならないということですので、ぜひ国の一元化に向けてやっていただきたい。

また議会でもということですので、その辺については国庫負担率を引き上げるとか、一元管理を国にお願いするとか、そういった部分の意見書等も出すべきだというふうに思っております。また議長と相談をさせていただきます。

それでは次にですね、生活インフラの充実ということで質問させていただきます。これは甘久の佐賀女子高等学校の跡地でございます。グラウンドと校舎が解体をされまして、今住宅地が造成をなされておるわけでありまして、この従前からの話でありますけれども、ちょっと大きな雨が降るとこういった水田が冠水をして農業被害が起こるといったことがあったわけでありまして。

またそれから、これは女子校前の道路ですね。これも非常に幅員が狭くて、離合場所も限られているというふうな状況。

それともう1つは公園ですね。これも1月から市長と回っていたときに、やはり親御さんからの要望としては公園をつくってほしいと。これまでのグラウンドがなくなって、運動会だとか子どもたちのコミュニケーションの場がなくなっているというふうなことでございました。

これはまあ、甘久だけ事例出しましたけども、そのほかにもあるというふうに思います。ぜひですね、この道路と排水路、それから公園、武雄市としてどのように今後取り組んでいくのかですね、この甘久だけじゃなくてですね、全体的なやはり考え方といったものをですね、持って取り組んでいただきたいというふうに思っております。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ確かに甘久地区だけじゃなくて、さまざまところがもうこの話というのが、排水路と公園と道路というのは3つのセットできてますので、各地区で整備計画を今年度中につくる必要があるだろうということは思っています。

これも地元の、これは区長会なのかまちづくり協議会なのか、そこはちょっとこれから判断をしますけれども、地元の意見をよく聞いた上で、その官民一体の整備計画をつくっていくと。その中で優先順位を決めて整備を行っていく必要があるだろうというように認識しています。

特にこの甘久地区っていうのは、私も何度も——ここ実は私のランニングコースでもあるんですけども、もう1カ月前とはもう全然違うことになってるんですね。もう住宅が売れて、もう実際建て始めたりとかして、新たに来た人が、やっぱり皆さん異口同音に公園が足りないとかってやっぱりおっしゃってるんで、そこは優先的にする必要があるだろうと思っていますので、いずれにしても各地区で整備計画を立てることはお約束をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます。こういった要望、各地から出てまいりますので、ある程度のガイドラインをもってね、市としてはこの方針でいくんだというところを作り上げていただきたいと思います。

次に図書館でございます。昨年からリニューアルオープンいたしましたけども、午前9時から午後9時まで、1年365日オープンするというので、画期的な図書館ができあがったわけでありまして、この1年間を通してどうだったのか、その辺についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

図書館につきましては、先ほどありましたとおり、昨年の4月から指定管理者としてCCCさんに運営をお願いいたしまして、時間延長、年中無休でことで図書館サービスの拡大のほか、カフェあるいは雑誌コーナーの拡充など、新しいサービスが提供されたということで、とにかく予想をはるかに上回ることで、平成25年度の来館者数は、92万3,036人という多くの方に来ていただきました。

そして先月の5月5日には100万人を突破して、それ以降もですね、多くのお客さんに御利用いただいております。特に土日祝日にはですね、県外からのお客さんで今も大変賑わっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これについては数ももちろん大事ですけれども、実際お越しいただいた方がどういうふうな御要望があったりとか、満足度があたりついているのは大事だと思っておりますので、去年の7月にちょうど来館者さんのアンケートをとりました。今年の7月以降も来館者のアンケートをとって、きちんと我々は声を受け止めてね、さらに改善を進めていきたいというふうに思っております。

去年の7月の満足度が82%、スタッフへの満足度が70%だったと。これよりもさすがに下がるとは思うんですけども、まあそれはそれとしてもね、いろんなちょっと御意見をもっと幅広く寄せたいなど、このように考えております。1周年経って7月にアンケートをしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

ここでちょっと1点だけですね、市民の皆さんからの要望でありますけども、駐車場がやはり足りないということで、今現在101台分あるということでお伺いをしております。その中でもですね、特に体が不自由な方のパーミットがですね、今2台分しかないというふうなことで、妊婦さんとかですね、こういったところに停められておりますけども、場所が足りないというふうな話もお伺いをしております。

ぜひこういった植栽をされてるようなところをうまく活用してですね、こういったほんとに困っておられる方のための改善をぜひ進めていただきたいというふうに思いますけども、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、身体障がい者用の駐車場っていうのは、今玄関の前に2台分確保をしておるところでございます。ただやはり、このお客さんの数ですから時間帯によりましては、とにかく利用者には大分不自由をおかけする場合がございます。

そういうことでうちのほうもですね、できましたら、近くて安全な場所、そういうところにぜひとも早急にですね、せめて1台分の場所は確保していきたいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

わかりました。健常者はね、ある程度歩いていただいて結構なんですけど、こういった不自由な方のためにですね、ぜひ対応をしていただきたいというふうに思います。

それでは次に市営住宅ですね。これは昨日の山口議員さんがちょっと質問をされておったわけでありまして、現在780戸ほどの住宅がございます。それを、建設課のほうですね、5名の皆さんが業務をされていると。これは兼務してやられておりますので、すべて丸々5名ではないんですけれども、こういった方たちが携わっておられるわけでありまして、ぜひ、ここは民間に任せていくといったことでもあります。いつから、これやるのかですね。ぜひ、早くこうやっていただきたいというふうに思っております。

また、これは相手がある話でありますので、業者さんの人数確保もありますので、いつからやるのかですね、きのう、ちょっとそこまで踏み込んだ話ありませんでしたけれども、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

昨日、ちょっと時期を私のほうから申し上げるのを忘れていましたので、時期を言いたいと思います。来年の4月からやります。その前に、事業者さんが、これにのってこられるかとかっていうのがありますので、早急に募集をかけたいと思っています。その前に制度設計をして、よくこれも議会と相談した上でね、早めに出していきたい、このように考えております。来年の4月からやります。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

住民の皆さんから、やはり住宅のトラブル等の相談結構あると思うんですよね。そういった部分はやはりもう市の職員さんで対応するんじゃなくて、ストレートに民間の専門業者のほうに電話をかけてもらおうと、それが早いと思うんです。職員さんはもっと別の仕事をさせていただくと、そういうふうにしていただきたいと思います。

防犯対策については、近日中に対策をいただくということでありますので、これはスルーさせていただきます。

次に老人福祉についてでございます。特別養護老人ホームの件でございますけれども、これは厚生労働省が発表しておりますけれども、全国で52万人の入所待ちがおるということで、4年間で10万人ふえている。その中でもですね、在宅の要介護3以上の方が15万人になっているということです。佐賀県で4,304人。この4年間で1,317人ふえているというふうなことで、この特別養護老人ホームについては、やはり受け皿がですね、根本的に足りない状況にあるんです。今の団塊世代の方が10年後、75歳を迎える。そのときには、もっともこの受け皿不足といったものが顕著になるわけでありましてけれども、武雄市の状況を見ますと、4つの施設が今ございます。その中で、定数いずれも50名で満床状態。100名から150名の皆さんが待機をされている。これは重複して申請されているところもあるわけでありましてけれども、これが年々年々ふえてきているんです。この待機者増についてどのように認識をされているのかお伺いをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

現在、特別養護老人ホームの入所待ちの状況と、それに対する対応ということでございます。議員の資料で530人と、重複されている方ということでいらっしゃるって、そういった書き方をされてありますが、こちらのほうが介護保険事業所で尋ねたところ、現在、入所待ちをしていると、ただその方が今現在どこにいらっしゃるかというのをまず考えてみたら在宅

にいらっしゃる方、かつ要介護3。大体、特養の入所基準と言われているものですが、そういった方がどのくらいいらっしゃるかということになれば、94名いらっしゃるということでございます。それでも94名の方が在宅で頑張っておられると、状況にあるというのは認識しているところでございます。

その方々の受け皿をどうすればいいのかというところでございますが、こういった介護保険制度対象の施設につきましては、なかなか全体的な介護保険の財政の問題等々がございまして、規制をかけている、新たな増床というのはなかなか認めがたいという状況になっているというのが、現在の状況だというふうに思っております。

これをやっぱりどうにかして、対応せんといかんということで考えられているのが、地域に密着したいろんなサービスを活用して、在宅で過ごしていく。それとか、特養に近いような居宅サービスの1つになりますが、グループホームとか、そういったつなぎの組織、施設をですね、つくって、この受け皿たる形で対応していくというのが、現在の考え方になっているのかと思います。

ただ、今回6期の介護保険事業計画ということで、27年から29年度までの3カ年の事業計画がつけられるわけでございますが、きょう、松尾陽輔議員のほうからも御質問ございましたが、国のほうでもそのあたりについて大きく考え方が変わってきておりまして、ちょっとどうなるのか、非常に見通しがつかないという状況でございます。

ただいづれにいたしましても、地域に合った身近なところでですね、生活をしていただくと。そのためにも、特養には入りたいけれどなかなかできないというのについては、それなりの受け皿、グループホームなり、小規模の特養なり、そういったものについてですね、やっぱりこう整備を要望していくべきじゃないかというふうに考えております。

これを具体的に行うということになれば、介護保険を運営いたしております杵藤地区介護保険事業所ですね、そちらのほうで今事業計画の策定に入りますので、そういった要望を挙げていくということで、考えられるんじゃないかというふうに思っているところでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

今、地域密着型の対応、あるいはグループホームということも出てきましたけども、グループホーム見てみますとですね、定数ほとんど満床状態で入所待ちの方も結構おられるわけですね。そういう状況の中でこう見てみますとですね、ぜひこのグループホーム、先ほど話がありましたけれども、そこの受け皿をぜひふやしていただきたい、そのように思っております。

これは、各施設をちょっと比較したものでございますけれども、特別養護老人ホームについては、施設基準も非常に厳しく管理をされている。そして、看護師とか介護士の配置基準も明確になっております。現在、対象者が介護1から5までというふうになっておりますけれども、一方、宅老所でございますね、そういった配置基準が明確に定められてない部分もあります。ただし、宅老所についてはですね、確かに地域に密着をして、対象者も自由に入れる、格安に入れるというふうなことでですね、今根づいてはきておるわけでありましてけれども、この待機者の中で、やはり認知症とかですね、非常に中度、重度の方が多いわけですね。そういった方々があふれている、その受け皿としてぜひこのグループホーム、ある程度の配置基準になっておりますので、ぜひここはグループホームをですね、今、満床状態にありますので、武雄市としては、グループホームをふやしていくんだということを老人福祉計画の中に織り込んでやっていただきたい。

今、国のほうで審議をされておりますけれども、特別養護老人ホームについては今度から介護1じゃなくて介護3からの入所に変えるというふうなことで、今審議がなされています。そういうふうに、もっとうれなくなるんですね。その受け皿としてはやはりグループホームだというふうに思っております。

宅老所もありますけれども、重度の皆さん、中度の皆さんは、やはりグループホームに入ってくださいということを、ぜひお願いをしたいというふうに思いますが、この点について、重複しますけど。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も基本的には、議員のおっしゃることには賛成なんです。しかし、これグループホームの、杵藤広域圏で決めることになりますけれども、これ広域圏の人たちが介護保険料がその分だけ跳ね上がることになるんですね。ですので、介護保険料の跳ね上げと、このグループホームの必要性っていうのが、ちょうどこうマッチするところにはしないといけないなという事は思っています。

ただし、繰り返し言って恐縮ですが、私も地域にね、各地区に小規模のグループホームがあるということは望ましい姿だと思っておりますので、そういう意味で、私は杵藤広域圏の管理者でもありますので、それは十分にその意を強くして、この老人福祉施設のね、今後のあり方については、そういった方向で考えてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

私の知った方もですね、奥さんが糖尿病、そして認知症にかかっている。ご主人がその

面倒を見られてるというふうな方がいらっしゃいました。そのご主人も、最終的には認知症になってですね、家事も同じ食事を毎回毎回出される、ゴミも散乱させているということで、ヘルパーさんも週に1回程度は来られていましたけれども、そういう悲惨な状態になっていたというふうなことで、実際、やはり本当にお困りの方がいらっしゃるんですね。ぜひそういった方々の受け皿は、やはり確保していくべきだというふうに思いますので、ぜひグループホームの増床については、武雄市として声を大にして広域圏のほうに伝えていただきたい、このように思います。

それでは次に養護のほうについて質問させていただきます。養護のですね、これは入所率のグラフです。武雄市内の施設で定員が56名に対して、平成22年度、55名の入所ということで98%だったんですね。これが平成26年度になりますと、52名ということで92.9%まで下がっております。これは武雄市内だけではなくて県内の施設も下がっている。92.9%ということで非常に低くなってきているんですね。

そういうことでこの養護といったところについては、身寄りがない、自立して生活ができない、こういう人たちを養護する、その施設に入れてですね、そういう目的があるわけでありまして、これだけ少なくなっているのはなぜかなというふうに思うんですね。

武雄市が経営をしていたころ、10年ぐらい前は、ここの入所待ちの方が10名程度はおられたんですね。しかし、今はそれがなくなっていることが本当にそうなのかなと。ある程度の基準はあるというふうに思いますけれども、その入所制限をされているのではないかと。措置控えをしているのではないかとということを確認をさせていただきます。いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

養護老人ホームの入所者に対しまして、市のほうが入所の制限をしているのかどうかというお尋ねでございますが、そういったものは一切行っていないということでございます。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

これは、今まで国が50%、そして県、市で25%ずつ出していたんですね。これが武雄市、市が全額出して交付税措置にされるというふうには思いますけれども、そういうふうに財源の変更がなされてきた。そういった部分での措置控えがあっているのではないかとこのように思うんですね。要望も恐らく窓口で相談、たくさん来られていると思うんですね。その辺の基準をあまりこう、ハードルが厳しすぎてこの措置控えになっているんじゃないかなというふうに思うわけですね。

この養護老人ホームにしても、やはり1つの施設でありますので、がらがらの状態ではやはり運営も厳しくなる、そういう部分もあるんですね。ですから、ある程度柔軟な対応をですね、もっともっていかないといけないんじゃないかなというふうに思いますけども、その点についてはいかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

入所の基準を少し柔軟にという形でございますが、ここにつきましても一定の法令に基づいた措置という形で行っている状況でございます。したがって、一定の基準というのが当然ございまして、そこは守っていかなくてはいけないというのは認識しているところでございます。

そうした上で、現在、申請者自体も減っているという状況ございまして、そういった状況の中で少しあきが出ているのではないかなというふうな考えを持っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

どれぐらい申請があつて、どれぐらい入所されているのかちょっとわかりませんが、ぜひそういったところも見直しをしていただきたいというふうに思います。

それとこの施設について、武雄市民の皆さんの入所場所を確認したところ、市内施設に入られてる方が29名、市外施設に入られてる方が31名なんですね。半分以上が武雄市以外のところで措置をされている。まあ、いろんな条件があつてね、仕方なく市外に行かれてるという部分もあるかというふうには思いますけどもね、このウエートからすれば、非常に市内のウエートが少ないなというふうに思うんですね。

この保険の費用については、やはり生活に密着した経費としてこう出されますので、できるだけ地元でそれを消費していただく、経済につなげていただく、そのこともやはり重要だと思うんですね。ですから入所判定をされるときに、進められるときにですね、できるだけ基本的に市内に入ってくださいというふうなことをやはりしていくべきだというふうに思うんですよ。この市内比率をもっともって上げるべきだと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

養護老人ホームの入所者の市内の施設への利用という形になりますが、あくまでも本人の希望というのが第一になっております。ただ中には、はっきりした目的、希望があつて、武

雄じゃなくてというのも、明らかに意思表示をされる方も中にはいらっしゃいますので、そういった方については、当然希望というのが最優先されると思いますし、あとその他、近くでとかいろんな状況で強くですね、市外を希望されているという方がいらっしゃらない場合も当然ありますので、そういった場合につきましては、なるべく市内の施設もありますので、相談申し上げながら対応できればというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

先ほどのように、やはり入所のあきがあるんですから、できるだけ基本はね、市内をまず優先してお勧めをするということで、ぜひお願いをしていきたいというふうに思います。

それでは次に施設の設置条例ということで、これは1年ほど前に質問させていただいておりました。

これはテニスコートを午後から4時間2人で借りた場合の使用料の比較ですね。天神崎公園が1,640円、山内中央公園が400円、北方運動公園が無料というふうなことで、これは不公平じゃないかということで、合併から8年なるということで、これは体育館であります。体育館もこのように、1,560円から無料までであるということで、今年の4月から改正されるかなと思っておりまじけども、なっていない。いつからやるのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

施設の使用料の見直しにつきましては、今回の消費税の増税にあたりまして検討いたしましたところでございますけれども、議員さん紹介のように、一部無料とか有料で1,000円以上とか、そういった非常に大きな格差がございまして、公平性の確保といった面から、どうしても無料のところは有料になってしまうというふうな、市民の方に負担増も強いというふうなところがございまして、なかなかこう踏みきれないでいるところでございます。ただ、いつまでもこうした状況はいけませんので、来年の4月に向けて、早急に調整を図りたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

来年4月に向けて、よろしく申し上げます。

それとですね、これも山口議員さんがちょっと質問されましたけれども、私からも質問させていただきます。

水道料金の件でございます。使用水量別の給水戸数ですね。これ6トンから10トンまでが基本料金の範囲であります。5トン以下が軽減料金ということで、6トンのところをですね、ここが576世帯ということで少なくなっている。5トンのところは、735世帯ということで一番高いんですね。通常だったら正規分布するはずなんですけども、ここが落ちこんでいるというところでもあります。

これは現在の水道料金の体系でありますけども、6トンから10トンまでが基本料金1,836円、5トン以下が864円ということで、2.1倍の格差があるんですね。ここでどうしても、今水洗化がふえてきておりまして、水を使う量もふえております。

高齢者の世帯、1人暮らしの世帯の方ですね、やはり風呂に入るのも2日に一遍にするとかという、そういう努力をしながらですね、やられているところがあるんですね。ぜひここは、5トン以下を基本料金として、そしてソフトランニングさせてですね、おろしていく、使った分だけいただきますよと。やはりそういう行政運営にしていくべきだというふうに思います、料金体系に。

これは我々が5年前ぐらいに決めたんですね。非常にまずかったなというふうに、私自身も反省をしております。ぜひここは見直しを、このような体系にしていきたいというふうに思っております。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

筒井上下水道部長

○筒井上下水道部長〔登壇〕

（モニター使用）きのうも市長のほうから答弁がございましたけど、武雄市では、今議員さんのお示しのとおり10トンを基本料金として1,836円と設定をいたしておりますけど、5トン以下の料金については福祉的な意味合いを含めまして軽減措置をとって864円ということで、県内一安い料金ということになっております。

議員御指摘のとおり、5トンまでの水道料金が864円ということで、これが1トンふえるということになりますと、10トンと同じ料金の1,866円と、こういうことで2倍以上になるということで、この料金差額があまりにも大きいということで、水道課のほうにもどうなっているんだと、間違いではないかというような意見も寄せられているところでございます。

そういうことから、今議員御指摘のとおり、段階的に値下げで調整をしていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。

それではですね、次、アセットマネジメントについてでございます。これもですね、市が

管理している建物が昭和40年から50年当時に建てられたものがほとんどで、現在耐用年数を迎えようとしているというふうなことで、この施設が小さく分けますとですね、300以上の建物がこうあるんですね。この部分をこれから改修したりしていかないといけないわけがありますけれども、そういう状況の中で、先ほども財政の話も出ておりましたけれども、合併してからの交付税が今までは各町単位で出ていたわけでありまして、一本算定替に33年からなると、完全移行されるというふうなことで、74億円あったものが、59億円ということで15億円の交付税が来なくなる。そして、歳入総額でいきますと25年度の段階で246億の予算規模が191億まで下がっている。これはもう明らかな数字であります。

そういった状況の中で、財源がない中で、今後公共施設をどのように維持をしていくのか。まあ1つ、市長が決断をされているのは体育館と文化会館、これを統合をするんだと、これも1つの選択であります。ほかの施設もですね、そういうふうに統廃合といったものを進めていかないと、この財源には対応できない状況が陥るというふうに思っております。そのことについて、どのようにですね、認識をされているのかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ本当に今の各町、あるいは各区の施設が物すごく老朽化してきて、それでそこに費用がかかっている状況にあるんですね。

ですので今回、総合体育館を設立するにあたって、いくつかのそういう施設を整理統合する必要があるだろうと思っています。これについても、ぜひね、議会でよく議論をしていただきたいと思うんですね。そうしないと、やはりですね、自分とこの町だと、なくなるというのは必ずそれはまた不平とかね、不満に繋がる。しかし議会がそこにかむことによって、まあ私たちも逃げるつもりはないんですけども、そこでぜひ説得をお願いをしたいと思うんですね。そうしないと、もう箱物でうち倒れることになりますので、ぜひそれはもう格段の御指導をね、お願いしたいと思います。

いずれにしても、整理統廃合を入れるということで、アセットマネジメントの計画はきちんとつくりたいと思っております。これは議会でよく協議をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

厳しいことを言いますが、やはり現実がこうなっていくんですね。財源がなくなる、そういったところをやはり市民の皆さんにもわかってもらわないかんし、議会も執行部もわかった上で、そのアセットマネジメントをぜひこう計画を立てていただきたいというふうに思

います。よろしくお願ひいたします。

それでは定住促進について質問させていただきます。

これは人口構造の変化であります。松尾議員さんのときも話が出ておりましたけれども、子どもたちの数もですね、7,400人から平成52年には4,600人ということで2,800人減ります。15歳から64歳の生産年齢人口、3万人から2万1,000人ということで、9,000人減る。65歳以上の方が1万2,900人から1万4,400人と、1,500人ふえるというふうなことで、合わせますと今現在5万700人が約1万強減るといふような推計がなされているわけでありませう。

そういった部分も含めてですね、この定住促進に今から力を入れていこうということで、お住もう課等を設置をされておるようでありますけれども、まずこれまでですね、いろんな取り組みをなされてきたというふうに思いますけれども、その取り組みの状況についてお伺ひをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

これまでの取り組みの状況でございます。平成19年度からまず2つございますけれど、1つ、空き家バンクでございます。こちらについては16件、この7年間で16件の登録がございますして、7件が成約されております。現在5戸の登録が行われております。

それともう1つでございます定住特区補助金。この制度につきましても同様の期間進めさせていただきますして、現在、空き家を購入、または賃貸、これが75世帯221人の方が御利用いただいております。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

定住特区の補助金と空き家バンクですね。その中で、空き家バンクについて今定住できているのは7件ということで、ちょっと少ないなど。そして募集中の世帯についても5つしかないというふうな状況で、あとの残り97%がまだ手つかずの状態になっているんですね。ぜひここについては、利用者の拡大をするための手だてをぜひ打っていただきたい。

やっぱり情報の発信、収集が足りないというふうに思うんですね。まず、市外の方に情報発信をするんじゃなくて、私たち市民一人一人がこういう制度があるんだよといったところをですね、わかっているいろんな情報をいただくといったところが必要だというふうに思います。

お父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも、こういう制度があるということで登録をしていただけるようにですよ、啓蒙をまずしていく必要があるんじゃないかなとい

うふうに思いますけども、その点についてどうなのかというところと、なぜこの定住促進を勧めるのか、その辺についてもお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

まず定住促進の目的でございます。先ほど資料のほうをお示しをいただきましたとおり、人口の減少という傾向は1つでございますが、もう1つは、先日市長のほうも御答弁させていただきましたが、やはり起業家を含めた新しい、そういう人たちの武雄市への定住、移住、これによって新しい満足、あるいは充実、そういったものを武雄の中でもつくってまいりたいというものもございます。

したがいまして、人口減少への歯止めという数値上の問題もございますけれど、新しいまちづくりの観点からの定住というような考えもございます。

具体的にはですね、この空き家バンクの登録、ただいま情報発信等の不足、これも現在、空き家をお持ちの方、あるいはそういうことを考えてらっしゃる方を含めた、市内へ向けての情報発信が確かに不足をしているというふうに考えております。こちらのほうも、宅建業界の皆さまとの連携も深めながら、今後進めてまいりたいと思っておりますし、積極的にお住もう課の職員、地域に出向いて参りまして、啓蒙活動を進めさせていただきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

よろしく願いいたします。

それと、今年4月からお住もう課ができたわけでありましてけども、どういった取り組みをですね、今後展開していこうとされているのか、もし案がありましたら説明ください。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

大きくは4つほど、今計画をしております。

1つは先ほど申しあげました空き家バンクの充実。これは住んでいただく場所をきちっと御提供するという意味で、引き続き強化をしましてまいりたいと思っております。

それからもう一つは、移住されてくる方々のお世話をさせていただくような方を地域にお願いをしたいというふうに思っております。これについては人選等も含め、ふさわしい方をぜひお願いを申しあげて、移住される方と地域をつなぐ、そういった役割の方の制度をですね、設けたいというふうに思っております。

3点目でございますが、実際に武雄市においでいただいて、生の武雄市を見ていただく、

あるいは体験していただく、こういった取り組みも考えているところがございます。実際に武雄市に数日住んでいただく、あるいは暮らしていただくといったようなこと、あるいは見ていただくといったようなことも今回制度化をしてみたいというふうに考えております。

もう1つは、空き家バンクだけでは、非常に住む部分としては弱い部分もございます。市長のほうから先般、御答弁申し上げさせていただきましたが、例えば武雄市が一時的に空き家を所有して、空き家をして、武雄市が積極的にリフォーム等を行って、それをお貸しするといったような制度、こういった新しい制度にも取り組みを進めてみたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

これは樋渡市長が一番初めに選挙に出られたときの公約に上げていただいた、第3子目以降の支援策ですね。これについては、まあ、先送りになったわけでもありますけれども、ぜひですね、この定住促進、少子化の歯止め、こういったものにあわせてですね、ぜひこの経済的な支援といったものを1回検討していただきたいなというふうに思っております。やはり定住といっても、武雄だけ人口がふえてもじゃあないですね。全体的に、やはり活性化するようにしていかなければならないと思いますし、その1つの武雄のモデルというか、そういう支援策をぜひお願いをしたい。

出産から保育、小学校、中学校、高校ですね。学校給食もあります。医療費もあります。こういったものをやはりセットにしてですね、売り出していく、このことも必要ではないかなと。ただこれが全額ここに投資するとなれば、1億、2億の金になると思いますので、例えば3分の1を補助するとかですね、そういったところをやはり1回検証していただいて、この経済的なところもあわせてやっていただく、そういう必要もあるんじゃないかなというふうに思います。

それと周辺部対策にもなりますけれども、周辺部の方、武雄に出てくるのにもやはり経費がものすごくかかっているんですね。松尾議員さんあたりも、毎日のように朝晩、送り迎えをされている、そういうふうな状況もあります。ぜひですね、こういったところの経済的な支援も一度検討していただきたいというふうに思いますけれども、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは最初の公約で出してたんですけれども、5点セットで全部やるとさすがに1億から2億ぐらいかかると。それを例えば3分の1にしても、じゃあ、それは効果があるのかなと

ということもあって、ちょっと考えさせてほしいのは、優先順位があって、まず我々は国保を徹底的に手当をしたいというふうに思うんです、国保を。そこでなおかつ今、税収がふえるということになったときに、財源がないととてもできませんので、税収がふえるという意味でね、税収がふえる分で、その分の中で、第3子目以降の支援策は考えていきたいということを考えているんです。やっぱり、優先順位からしても、寝ても覚めても国保なんですよ。国保に一定のめどをつけたときに、ここは考えたいというふうに思っていて、その必要性がないということは考えていない。

ただね、これ議員も同じだと思うんですけれども、これね、武雄だけでやってもあんまり意味がないですよ。ですのでこれこそね、佐賀県で少子化対策で今、知事もやられようとしていますので、これはもう、少なくとも僕らは逃げるつもりはないんですけども、少なくともこれは県レベルで取り組むべき話だと思います。フランスとかはもう国レベルでやっていますのでね。だからそういうふうに、もう少し広域化、あるいは県がちょっと厳しそうだったら、広域圏の中でやるとかね、いうふうにする必要があるんだろうなというふうに思っています。

第3子目以降については、繰り返しで恐縮ですけども、必要性を全然なんかね、ないと全然思っていないですよ。その優先順位については、繰り返しになりますけど、まず国保をまず取り組んでいきたいなというふうには思っています。その次にぜひやりたいなと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

それでは続きまして、小学校のですね、室内環境の整備ということで、空調整備の状況でございますけども、中学校については普通教室100%、今年の春から実現をしていただいたところであります。特別教室が18%ということでもまだ残っているんですけども、恐らくこれは図書室とかパソコン室に整備されている19件だと思いますけれども、そのほかにもですね、例えば図工室とか工作室ですね。それから家庭科室、音楽室、こういった特別室があるわけですので、そういったところも、子どもたち毎時間使っていますので、普通教室と同じくですね、やはり導入をぜひしていただきたい。それともう一つ、小学校の普通教室、特別教室ですね。これについても今後検討していくということで市長からお伺いしておりますけども、この点について、どのような状況になっているのかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

空調機の設置状況ですけども、表を出していただきまして、ありがとうございます。そ

の中で、結論から言いますと、まだ計画は立てておりません。と申しますのも、まず中学校の特別教室で申し上げますと、これを設置するということになりますと、概算の工事費で先ほどの特別教室ですね、今現在ついているのは保健室、図書室、パソコン室等で、それ以外が中学校で 34 教室、約 5,500 万円が必要となります。また維持費、電気代等が年間で約 500 万円の増となります。

また、小学校につきまして申し上げますと、普通教室が 126 教室で 1 億 3,000 万円の工事費、特別教室 51 教室で約 8,000 万円。あわせて 177 教室で 2 億 1,000 万円。維持費といたしましても、年間で約 2,500 万円程度の増。

こういうことで、多額の予算を伴うということですね、今のところまだ計画はしておりませんが、中学校の普通教室を入れておりますので、できるだけ早めにですね、年次計画を立てて整備できればというふうに考えております。

〔樋渡市長「ちょっと違うな」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これなるべく早くなんて無理です。というのは、中学校はタブレットを配付するというので、これが一丁目一番地。

次が、今実際に山内も含めてそうなんですけど、学校の耐震化、あるいは学校を新しくするということにも、多額に今、教育関係にお金を入れてるんですね。ですので、これも優先順位がありますので、そのめどがついたときに、しかもその時期の財源状況を見ながら、特に小学校の教室のね、部分には入れていきたいなというふうには思っています。ちょっと優先順位からすると、議員とはちょっと見解が異なるかもしれませんが、私どもとしては正直にそういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

財源が伴う部分でありますのでですね、そういうふうなことになろうかと思っておりますけども、先ほど総事業費で 2 億ですか、総事業費なのか、単費で 2 億かかるのか、単費でいくらかかるのかお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

〔13 番「概算で結構ですよ」〕

○溝上教育部長〔登壇〕

先ほど申し上げたのは工事費でありまして、例えばこれが補助金にのるとすれば、3 分の

1の補助がございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

優先順位もあるということでありまして、つい先日は、北海道のほうでも37度を超える日があったということで、非常に気象も変化をしております。平均気温もどんどんどんどん上がっていくというふうなことも言われておりますので、ぜひそういったところも考慮してですね、優先順位をつけながら設置に向けて頑張ってくださいと思います。

それと、これは朝日小学校の児童数と学級数をあらわした表でありますけれども、6年生が3クラス、1年生が3クラス、年長組が3クラスということで、そのほかが2クラスなんです。

教室を見ますと、もともと建設当時は2クラスで計画を立てておりますので、3クラスになった部分が不足をしているということで、教室がマイナス2の状態になってます。どこを使っているかという、特別教室を普通教室に置き換えてやっている。

朝日の場合は、放課後児童クラブもその中に入れておりますので、非常にもう空きスペースがないというふうな状況にあります。

それともう1つ、職員室でありますけれども、平成14年に改修をしていただきました。このときの職員定数が24で計算をしてフロア設計をされておりますけれども、現段階では29名、これにプラス3名程度の皆さんがまた入ってこられているということで、非常にですね、この教室並びに職員室が手狭な状況になっているんですね。

これ朝日だけちょっと挙げましたけれども、例えば人口がふえているこの御船小学校とかですね、そういった部分も含めて、全体的にですね、見直す必要があるんじゃないかなというふうにも思っているところでありますけれども、この点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

朝日小学校の状況でございますけれども、議員おっしゃるとおり、朝日小学校は平成14年から16年に校舎の改築と大規模改造を行いました。その当時の計画はおっしゃるとおり、教室が12教室で、設計というか、計画をしております。

ただしその当時も、若干転用できるようにということでですね、特別教室を多めに整備をしているところです。そういうことで、現在は確かにおっしゃるとおり、特別教室を2教室ですね、転用して対応してもらってます。

そういうふうな中で今、今後のですね、児童数の推移、今の住民基本台帳で推移を見ますと、平成32年度まで今のままの状況で比べますと、今の14クラス以上になることは今の状

況ではございません。ということで、今の、ちょっと様子をですね、児童数の推移については様子を見ていきたいと思っております。

また職員室につきましても、おっしゃるとおり 24 人で計画をして、現在は 29 名ということで、現地も見ましたけれども確かに手狭というふうには感じております。しかし、教室数とあわせて考えるということで、机の配置等を工夫して、何とか今の教室で対応していただきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

これも優先順位があると思しますので、よろしく願いしときます。

次に学校給食の民間委託ですね。今年の 4 月から委託契約が更新をされております。これ 4 小学校挙げておりますけれども、全て今年度の、プラス改定になっておるわけでありまして、これがそこに働かれる調理員さんたちの賃金アップにつながっているかどうか、ここが一番大きなところだというふうに思いますが、この状況どのようになっているのかお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

学校給食の調理員さんの賃金アップということですが、これにつきましては、毎年 5 月頃、事業者の方に賃金の状況についてお伺いしております。その結果を申し上げますと、今年度はですね、昨年度から特に入札等のときにも賃金アップをお願いしてございまして、そういう事情で 25 年度すべての事業所で賃金を改定されてございまして、時給で申し上げますと 30 円から 60 円程度アップをされております。

さらに今年度ですね、4 月からまた 10 円から 30 円アップしている事業者もありまして、大幅ではございませんけれども、徐々にアップをしてきているものというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

1 年半ほど前、質問させていただいたときにいろいろお話を聞いていたら、最低賃金よりちょっと高いレベルでの雇用がされているとかですね、そういう状況になったわけですね。今、30 円から 60 円、10 から 30 円って言われましたけれども、そう高い賃金ではないというふうに思うんですね。これで妥当というふうに思われているのかどうか、この点についてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

給食従事員さんの賃金につきましては、とにかく暑いようなですね、そういう状況の中で安全な給食のために頑張っていただいております、金額については全てきちっと教えていただく事業所と、アップ金額だけ教えていただけるところがありますけれども、おおむね最低賃金より100円ほどですね、高いという金額を、おっしゃるところはですね、そう伺っております。

ただし、でも決して高いということは思っておりません。さらにですね、機会があるたびに、賃金アップについてはお願いをしていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

高いか安いかの判断はですね、市がいくらでその積算をして入札にかけているか。その金額に対してどうなのかなんですよね。この民間委託をする前は時給900円ぐらいでお仕事をさせていただいた。それが民間委託になったら600円台、700円台。これはね、あまりにもひど過ぎると思いますし、今いくらでね、市は設計されているのか、その点についてわかれば教えてください。わからんぎ、わからんでよかです。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

入札の際の、うちのほうの設計金額ですが、時給換算で、職種はですね、業務の責任者、副責任者、常時雇用、臨時雇用、そういう種類がございますけれども、うちのほうは最高で954円から820円の範囲で、一応計画をしているところです。

○議長（杉原豊喜君）

13番吉川議員

○13番（吉川里己君）〔登壇〕

市が入札にかける積算根拠が954円から820円ということですね。今実際に、額に汗して働かれている方が700円から750円ぐらいで働かれているんですね。ここのギャップについては、やはり労務費がほとんどなんで、この入札の中ですね、経費とあと労務費で占めるとわけですので、ここの部分についての差はですね、やはり発注者側としてですね、もっと格差を縮めていく、その努力をするべきだというふうに思いますけれども、この辺どうですか、市長。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはなかなか難しい問題でありましてね、まあ企業努力だとは思いますが、やっぱり埋めていくべき必要はあるだろうというふうに思っていますし、なおかつ働かれる方々のね、やっぱりその気持ちを大切にしないといけないなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

ちょっと違いますけれども（笑い声）いや本当に発注者が設計している単価でね、出してないということはやはり、ここは問題だというふうに思うんですよね。労務費がもうほとんどなんですから、それよりも大きくこれだけ下回っている価格でですね、働かされているのは、私はいかがなものかというふうに思いますので、そこは発注者側がもう一つ踏み込んでやっていくべきだというふうに思いますので、またよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、さっき答弁間違えてました。これちょっとね、今の入札のまんまだと、どうしてもこう安い方向になると、それが賃金へのしわ寄せになると思うんですよね。だから一般の入札とこういったのを分けて考える必要があると思っています、入札のあり方そのものをね、やっぱりちゃんと考える必要があるだろうと思っています。やっぱりきめ細かな入札。しかもこれね、そこだけでやるとちょっともうこれは話になりませんので、やっぱりオープンにして、これよく議会とまた相談をしたいなというふうに思っています。これ結構やっぱり難しい問題なんですよ。ですがこれは、その賃金だけひねるというのはとても無理なんで、入札のあり方そのものにちょっとメスを入れて、しっかり考えていきたい。原案は執行部のほうで作りますので、よくこれも議会と相談をした上で施行をちゃんと丁寧にしていきたいなと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13 番吉川議員

○13 番（吉川里己君）〔登壇〕

以上で終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、13 番吉川議員の質問を終了させていただきます。